

# 全域



---

---

# 11. 施策の展開シナリオ

---

---

Port of Shimizu



キャッチフレーズ (基本理念)	20年後の目指す姿 【目標】	基本戦略	清水港が目指すべき方向性	取組施策	短期 (～5年 後)	中期 (5～15年 後)	長期 (15～20 年後)
世界遺産富士山のもと、海洋と「交易」を育み、備えられた「豊かな歴史・文化を礎に、国内外の観光客を惹きつける『美しい空間』の提供」 <b>スマート ガーデン ポート 清水</b>	①社会に貢献し、利用者の国際競争力を高める スマート物流の拠点 【コンテナ貨物年間取扱量:100万TEU】 ②イノベーションある海洋研究と人を育てるみなとまち 【ブランド力のある水産物、新たな食品開発や創薬】	○充実した陸・海交通ネットワークを活用し、トラック隊列走行やクレーン等の遠隔化・自動化、データ連携基盤などの革新技術を導入した国際物流ターミナルを形成するとともに、モーダルシフトやLNG/バンカリングによる燃料供給体制などの充実を図ることで、「クリーンで、どこでもほしいときにモノが届く社会」の実現に貢献する。 ○コンテナターミナルとROROターミナルとが直結するロジスティクス機能を活かし、農水産品の輸出や流通加工などの多様なサービスを展開することで、県内企業を始めとする利用者の国際競争力を高め、利用拡大を図る。 ○貴重な港湾空間の用地を活用し、駿河湾や南海トラフなどの豊富な海洋資源を研究する調査船の基地港として、海洋関連施設や展示学習施設を集積し、知見を分かち合い、深海への探求心や海の仕事を共感する次世代を担う海洋人材を育成する。 ○マリノバイオテクノロジーを核とした研究拠点形成を始め、水産、食品、医療など県内に集積する研究機関や企業との融合によるイノベーションを促進することで、ブランド力ある水産物など、製品開発による県内産業の活力向上を図る。	①コンテナ機能の集約化とさらなる大型コンテナ船の寄港環境確保	①-1: 次世代高規格コンテナターミナルの形成(大水深多目的国際ターミナル化)			
			②働き手不足や環境問題に対応するための次世代高規格ユニロードターミナルの形成	②-1: 次世代高規格ROROターミナルの整備 ②-2: ROROとコンテナの連携による効率的な輸送手段の構築			
			③高度な物流サービスを提供する臨海部ロジスティック機能の強化	③-1: 安全安心な流通加工環境が整ったロジスティクスセンターの導入(港頭地区における在庫拠点化)			
			④情報通信技術の活用による物流のスマート化	④-1: 内陸部の物流拠点(インランドデポ等)を活用した隊列走行の受入 ④-2: 船舶の自動化への対応			
			⑤バルク船大型化への対応	⑤-1: 大型輸入バルブ船対応施設の整備 ⑤-2: 大型輸入液体運搬船対応施設の整備			
			⑥バルク貨物取扱機能の効率化・安全性向上	⑥-1: 外内貨多目的ターミナルへの集約・再編			
			⑦LNG/バンカリング拠点の形成	⑦-1: LNG輸入拠点におけるバンカリング機能の導入検討			
			⑧低米利用な用地・施設の有効活用	⑧-1: 産官学が連携した海洋研究拠点の形成 ⑧-2: 新たな液状土砂処分用地の確保 ⑧-3: 村松運河の埋立による物流の効率化 ⑧-4: 道路構想(将来的に三保貝島の利用が高まる可能性を視野)			
	③国内外の人々が憧れ、訪れる美しいみなとまち 【クルーズ船年間寄港回数:175回 / クルーズ船による年間来訪者数:60万人】 ④海の豊かさを享受し、楽しみ愛でる水上の庭園 【海水浴ができ、多様な生物が生息する水環境】 【自然景観と港湾構造物の色彩が調和した美しいみなと景観】	○世界遺産富士山と調和した美しい景観やみなとまちの歴史・文化を活かし、周辺の類まれな観光資源とつながる国際交流拠点を形成することで、クルーズ船やスーパーヨットなどにより来訪する国内外の人々がみなとにあふれる光景が日常のものとなり、そこに地域の人々が集まり、若者を中心に様々な事業を展開することで、観光を核とした地域経済の活性化を図る。 ○三保松原に抱かれた穏やかで美しい水面を後世に引き継ぐため、地域ぐるみで自然環境、港湾景観の維持・向上に取り組む。 ○海浜整備などの公共投資を契機として、水域の利用と一体となった民間活用を促進することで、海に遊び、生き物に触れ、海辺を散歩し、眺めとともに食を楽しむ、庭園のような親水空間を形成し、住みやすく、居心地の良いみなとまちを創造する。	⑨国際クルーズ拠点の形成	⑨-1: 日の出頭のクルーズ受入対応施設の整備			
			⑩スーパーヨットの拠点港化	⑩-1: スーパーヨット受入機能の確保			
			⑪「みなと」と「まち」が融合した観光交流空間の創出	⑪-1: 国際クルーズ観光及び海洋文化拠点を活用した交流・賑わいの創出(日の出) ⑪-2: 食の拠点を活用した交流・賑わいの創出(江尻)			
			⑫人々が水辺にふれあい観光を育む親水拠点の形成	⑫-1: 富士山の映える「ヘルスケアリゾート」の形成(折戸) ⑫-2: マリーナ機能の拡充(折戸) ⑫-3: 人工海浜を核とした海洋レジャー拠点の形成(新興津・三保)			
			⑬持続性・安全性に配慮した人流動線の確保とアクセシビリティの向上	⑬-1: 小型モビリティの自動運転の活用と各地区の賑わい空間との連携 ⑬-2: 各拠点を接続する緑道の導入			
			⑭良好な景観・環境の創出	⑭-1: 海浜・薬場の再生や生き物の生息場づくり ⑭-2: 美しい景観の創出 ⑭-3: プレジャーボートの適正配置			
⑤安全・安心なみなとまち 【自然災害から市民や港湾利用者、来訪者の生命を守る】 ⑥必要なモノがいつでも届くふじのくに 【大規模災害発生時でも3日後に緊急物資、2週間後にコンテナ貨物の荷役再開】	○自然災害に備え、防潮堤など津波高潮対策施設の整備や避難体制の充実を着実に推進する。 ○緑地と一体となった津波対策施設など、普段から人が集まることを意識した防災施設とすることで、安全が実感でき、安心して訪れ、暮らせるみなとまちを築く。 ○防災先進地としての英知を活かし、平時における港湾機能の維持に加え、災害発生後に素早い機能回復を果たすため、公共インフラの戦略的メンテナンスや強化、リスクマネジメントなどソフト・ハード施策を推進し、大規模災害発生後の周辺地域の早期復興を支援する。 ○緊急物資の海上輸送経路を確保することにより、大規模災害時において陸路が途絶しても、生活や医療に必要な物資が確実に人々に届く社会の実現に貢献する。	⑮防災・減災機能の強化	⑮-1: 津波防災対策の推進、無堤区間の早期解消 ⑮-2: みなとBCPの改善 ⑮-3: 耐震強化岸壁の整備				
		⑯既存ストックの戦略的維持管理の推進(スクラップアンドビルド)	⑯-1: 老朽バースの段階的な長寿命化対策の実施や埋立による施設廃止				